

# News Letter

2013.3 第2号

Educational and Academic Support Organization

## 新たな学びを支える教員養成と学び続ける教員像の確立

教育研究支援機構長・学長 長 友 恒 人

昨年8月に中央教育審議会から「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」が答申されました。答申は、教員養成、採用、現職のそれぞれの段階における資質能力の向上に関する方向性を示しています。答申では、「新たな学びを展開できる実践的指導力」、「理論と実践の往還による教員養成の高度化」が課題として指摘されています。地域や現場と連携した教員養成は、実践と理論の往還として答申を具現化するものと受け止めることができます。



本機構に属するセンターの本年度の活動は、それぞれの研究活動とともに、学生や現職教員が参加する実践的活動に力を入れたものになりました。「教師のための教育実践セミナー」、「スクールサポーター研修・認定」、「ユネスコスクール活動」、「特別支援教育研修とセミナー事業」、「小学校における理数連携授業」、「あつまれ！お米たんけんたい」等々、工夫を凝らした地域・現場との共同作業が盛りだくさんでした。

今年度の成果を踏まえ、次年度も地域や現場と連携した「学び続ける教員」養成のための活動を充実させます。

奈良教育大学講堂

## 奈良教育大学教育研究支援機構

<p><b>学術情報教育研究センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 図書部門</li><li>・ 情報・メディア教育研究部門</li><li>・ 情報基盤部門</li></ul>	<p><b>教育実践開発研究センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育実践研究部門</li><li>・ 教育臨床研究部門</li><li>・ 地域教育支援開発部門</li></ul>	<p><b>持続発展</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 文化遺産教育研究センター</li><li>・ 人権・市民性教育研究部門</li><li>・ 文化遺産教育研究部門</li><li>・ 文化多様性教育研究部門</li></ul>	<p><b>特別支援教育研究センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 発達支援部門</li><li>・ 教育実践支援部門</li></ul>	<p><b>理数教育研究センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育プログラム推進部門</li><li>・ 先端科学教育部門</li></ul>	<p><b>自然環境教育センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育研究開発部門</li><li>・ 地域開放部門</li></ul>
--	---	---	--	---	--

## 【学術情報教育研究センター】

### 1. 図書館改修工事

図書館は、平成 24 年 1 月 16 日、西側部分の耐震補強と機能改修工事（第 1 期工事）が終わり、新装開館しました。



テープカットには図書館の学生スタッフも参加

第 1 期工事では、屋根・柱の補強、免震書架の導入に加え、閲覧室やグループ学習室の改装、空調設備の改善を行い、快適な学習・研究環境が整いました。グループ学習室は期末試験期間の利用が特に多いですが、学生の自主的な模擬授業、英語学習や音楽の DVD 鑑賞など、さまざまな目的で利用されています。

平成 25 年度には、第 2 期工事として、東側部分の増改築工事を予定しています。学生が思い思いに議論を行うことができる広い空間や、くつろぎの場を設けるほか、図書館が所蔵する古文書や浮世絵を保管するための貴重書庫を整備します。

個人学習の場所だけではなく、学生が協力して学術情報を最大限に活用し、問題解決を行う場所を提供します。

### 2. 授業と e-ラーニングシステム

情報館ではコンピュータを使った授業を行っており、例えば入学すると、コンピュータの基本操作やワープロや表計算ソフトの使い方、情報モラルを学び、学習・研究や就職活動といった学生生活に欠かすことのできないツールであるコンピュータを自由に使うことができるようになります。

また、インターネットを使っていつでも、どこからでも授業の復習や予習などを行うことができる学習

支援の仕組みである e-ラーニングシステムを活用しより学びを深めていきます。

e-ラーニングシステムでは、復習や予習のために教材や資料をダウンロードして閲覧できるほか、小テストを受験したり、課題のダウンロードや提出、掲示板を利用した教員との意見交換も行うことができます。

### 3. 情報機器を活用した学習環境の整備

平成 24 年度には模擬授業室の整備と双方向遠隔授業システムを整備しました。

模擬授業室は、学生の教育実践力育成および教育実習や教育現場で ICT 機器を活用することができる高度なスキルを持つ教員養成を目的として整備を行い、電子黒板や書画カメラ、ビデオ撮影装置等を備えています。主に教職課程に係わる授業や教育実習前の模擬授業等に活用されています。

双方向遠隔授業システムは、大阪教育大学および京都教育大学と連携して、インターネット回線を通してテレビ会議システムおよびタブレット PC 等の ICT 設備を用い、大阪教育大学および京都教育大学の特色ある授業を奈良教育大学にしながら受講することができます。来年度は講義数をさらに増やし実施する予定にしています。

### 4. 「博物館実習」の学習と発表の場(教育資料館)

本学では、教育、学術関係の資格をいくつか取得することができますが、その中に「博物館学芸員」があります。同資格取得のために必修科目としての「博物館実習」（3 単位、90 時間）の実習の一部が、教育資料館において毎年実施されています。

同館では、毎年、主に展示に関する実習が行われ、その成果が一般に公開されます。平成 24 年度は「感性を磨く博物館—2012 年度博物館実習成果報告展—」と銘打ち、平成 24 年 12 月 14 日～平成 25 年 1 月 23 日まで開催されました。

展覧会は、関心のあるテーマを設定し、企画立案のうえ、資料の収集から初め、独自の視点で切り込み、それを観覧者にわかりやすく伝える工夫を考え、展覧会を仕上げる体験こそが実習だったといえます。

## 【教育実践開発研究センター】

本センターは、教育実践研究部門・教育臨床研究部門・地域教育支援部門の3つの部門にわかれ、所属する教員の専門性に基づき、地元の奈良県をはじめとした地域教育の支援活動を行なっています。ここでは、そのうち2つの取組みをご紹介します。

### 1. 教師のための教育実践セミナー

教育実践研究部門と教育臨床研究部門では、合同で「教師のための教育実践セミナー」を開講しています。現場の教師（講師等）が、日ごろ子どもたちの指導や対応に対して困っていることや疑問に思うことを、気軽に分かち合ったり検討したりする「場づくり」を目的としています。

教育実践研究部門の教員が担当する「教育方法」と教育臨床研究部門の教員が担当する「教育臨床」の2つのクラスに分け、それぞれ5回程度のセッションを持ちます。本学のウェブサイトや、それぞれの部門が関連する研究会などで参加者を募ったほか、現職教員として勤務している本学のOBやOGにも声をかけました。平成24年度は、「教育方法」のクラスに10名（大学院生含む）、「教育臨床」のクラスに8名の参加がありました。

「教育方法」クラスでは、学級経営に関するケーススタディを行いました。参加者の一人が学級経営上の困りごとや悩みごとなどを「ケース」として書き起こし、それを残りの参加者で読み、問題の所在や解決の方途などを協同でディスカッションします。セッションを通して、ケースを提供したある参加者は、「学級の子どもと日々向き合っているからこそ見逃してしまいがちな子どもの姿に改めて気づくことができた」と述べていました。

「教育臨床」クラスには、養護教諭が参加されています。保健室登校や不登校傾向の子どものことについて事例検討の形式で話を進めるとともに、児童のジェノグラム（家系図）やまわりにいる友達、担任やその他の教職員などの社会的な関係図を黒板に書き出していきました。参加者からは様々な立場に共感した質問や意見が飛び出しました。

その後、問題解決志向アプローチの立場から検討を進めるなかで、家族の難しさや幼少期のしつけのまずさが語られがちであったのが、少しずつ「今それぞれ

の立場の人に何ができるか？」という未来志向的な視点で議論ができるようになりました。

### 2. スクールサポーター研修・認証制度

地域教育支援開発部門では、「スクールサポーター研修・認証制度」を実施しています。本制度は教員を目指す学生が、①より早い段階から、より長い期間にわたって、現場経験を積むことができるように、各県・各市教育委員会と連携を取りながら学生をスクールサポーター（学校活動支援ボランティア）として学校現場に送り出すと共に、②単なるボランティア体験にとどまらないように、年間を通して必要な学びの機会を保障し、③さらにこの教育実習以外の‘体験と学びを得た証’として一定の要件を満たした学生に認証（キャリアにつながる学びの証）を発行する制度です。

本制度は学生の自発的な態度を奨励する制度であり、任意参加を原則としています。また、他大学の学生にも広く参加を呼び掛けています。教員養成大学としての専門性を生かした特色ある教育プログラムの提供および社会貢献も本制度を実施する意義の一つです。

平成24年度は、延べ188名の学生が本研修に参加し、177名が認証を取得しました。他大学からの参加状況は、教育大学2校、奈良地区の私大4校、京都地区の私大3校、大阪地区の私大2校、兵庫地区の国公立大1校、合計12大学から参加がありました。

先日、ある市教育委員会が主催するスクールサポーター関連の協議会に出席しました。スクールサポーターを送り出している28大学がご参集でしたが、多くの大学が現在、事前・事後指導の実施を検討し始めているとおっしゃられていました。事前指導はもちろんのこと、中間研修も積極的に進めている本学の取り組みが希少であることを認識した次第です。本研修・認証制度ないしその仕組みが、一層社会に活用され社会に貢献できるよう、引き続き、実践研究を進めていきたいと思っております。



スクールサポーター研修会

## 【持続発展・文化遺産教育研究センター】

### 1. 人権・市民性教育部門の取組み

人権・市民性教育部門では、人権、文化的多様性、環境を重視した持続発展教育(ESD:Education for Sustainable Development)の内容および方法について、理論的・実践的な研究と教育を行い、持続可能な社会づくりの担い手の育成と支援に取り組んでいます。また、人権教育・市民性教育に関わる企画・コーディネーションを行っています。

2012年3月には、海外からの研究者を迎えて、「21世紀の教育にとって何が大切なのか—人権・市民性教育の観点から」をテーマに、研究フォーラムを開催しました。学部科目では、「人権と教育」を通じて、人権意識の醸成や自尊感情の形成につながるCAPプログラム(Child Assault Prevention=子どもへの暴力防止プログラム)をCAP西大和との共同により、ワークショップとロールプレイの手法を用いた体験型・参加型の実践的な学習を展開しました。

### 2. 文化遺産教育研究部門の取組み

文化遺産教育研究部門では、文化遺産を切り口としたESDの研究に取り組んでいます。本年度も全国のユネスコスクールを支援する大学間ネットワーク(ASPUnivNet)の事務局を務めました。また「「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員の養成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト」に取り組み、地域のユネスコスクールの交流を目的としたESD子どもキャンプの開催や防災教育県外研修を実施したり、10回に及ぶ学ぶ喜び・ESD連続公開講座を開催したりすることで、地域のESDセンター校機能の充実に努めました。

被災地支援としては、陸前高田市文化遺産調査団を派遣して仏像調査を行い、その成果を教材化しました。また台風12号による被災地である十津川村においては、6回の道普請ボランティアを実施しました。

さらに2月23日には奈良教育大学ESD学会第1回研究大会を開催し、ESDの理論化に向けた先進的な研究協議を行うなど、日本のESDの推進に寄与することができました。

### 3. 文化多様性教育研究部門の取組み

文化多様性教育研究部門は、新たに2012年4月に19名、10月に31名の留学生を迎え、総勢83名の留学生教育の推進を図ってきました。特に本年度は、文科省の国費留学生である「日本語・日本文化研修留学生」の受け入れが16名と拡大し、教員研修留学生、本学協定校である7カ国9大学からの交換留学生を併せると、短期留学生の人数が29名となりました。これら多様な文化背景を持つ世界各国からの大学生が、本学での生活や研究を通じて、より深く日本語・日本文化を学んでいけるよう、さまざまな教育実践を行いました。

#### ・日本人との交流イベント

本学に在学する留学生と日本人学生とが交流をすべくきっかけにしてもらおうと、学生支援課留学生担当が中心となって毎月一度、様々なイベントを開催しています。2012年度は奈良実習園での田植えや稲刈り体験、ならまちなどの地域散策、東大寺の修二会などの奈良の伝統行事見学などを行いました。日本人学生と留学生が異文化との接触を通じて日本に触れる体験を共有することは、留学生教育という枠組みにとどまらず、国際的な視野を持つ教員の養成にもつながると期待できます。

#### ・本学附属中学校との交流

2012年度は本学附属中学校の協力を得、本学留学生と中学1年生徒の交流機会を持つことができました。国立民族学博物館見学(11月15日)、中学校訪問(1月30日)、東大寺でのフィールドワーク(2月15日)といった多様な体験を通じて複数回交流を行うことで、異文化をより身近に感じる事ができたようです。3名の教員研修留学生も附属中学校を訪問し、各留学生が専門とする科目の授業参観や附中の教員との懇談会も行いました。

また、12月15日に本学で開催された「第5回百済文化国際シンポジウム」に、文化多様性教育の理論的実践的研究の一環として参加しました。

さらに本年は、本学の「国際交流に関する基本方針」の策定にも着手し、「国際的視野に立った教員の養成」を主眼とする全学的な「留学生(受入、派遣)教育」の明確化を目指した検討も始めています。

## 【特別支援教育研究センター】

### 1.活動概要

特別支援教育に関わる理論と実践に関する教育研究を総合的に行い、特別支援教育を担う人材の養成に寄与するとともに、地域における児童生徒等の教育的ニーズに応じた特別支援教育推進に貢献します。

発達支援部門（主に保護者を対象として発達相談、専門プログラム実践、先駆的研究などを行います）と教育実践支援部門（教育委員会や学校等と連携して、教育相談、共同研究、人材養成などを行います）から構成されています。専門家揃いのスタッフ（児童精神科医、心理士、作業療法士など）が笑顔で仕事しています。

文部科学省平成22～24年度概算要求プロジェクト「地域全体でライフサイクルのニーズに応じる特別支援教育モデル推進事業—教育委員会等との連携による大学のセンター機能の強化と人材養成—」として、教育委員会や学校園と連携しながら、多彩なニーズに応えることのできる特別支援教育のモデル構築と人材養成を行ってきました。25年度からは、新たにICT教材を開発・活用しながら、一層地域の先生方と連携しながら、人材養成できるネットワークを作り取り組んでいきます。

2.平成24年度研修事業…25年度事業は、順次HP (<http://nara-edu-csne.org/>) にアップしていきま

す。

【特別支援教育公開講座（兼支援員養成講座）】

- 一般の方・専門家の方むけ
- ①6/29（土） 根来秀樹（本学准教授・副センター長）  
「ライフサイクルからみた発達障害の理解と支援—児童精神医学・脳科学の立場から—」
  - ②8/4（土） 岩永竜一郎氏（長崎大学准教授）  
「早期からの感覚・運動アプローチ、コミュニケーション指導」
  - ③10/19（土） 白石恵理子氏（滋賀大学教授）  
「“今”を輝かせて“未来”につなぐ—思春期・青年期を見通して、幼児期・学齢期に大切にしたいことは—」
  - ④11/17（土） シンポジウム  
講演1 上村逸子氏（大阪教育大学教授）「発達の

観点からみた子どもの支援」

講演2 相澤雅文氏（京都教育大学教授）「『気になる』子どもの自己意識の変化と求められる支援」

講演3 井上洋平（本学特任准教授） 「子どもがつけたい力を探る—発達論的アプローチの可能性—」  
シンポジウム 「長期的視点での早期からの支援の重要性」

シンポジスト：講演1～3の講師の先生方、コーディネーター：岩坂英巳+森山貴司氏（奈良県発達障害支援センター「でいあ〜」センター長）

⑤12/22（土）

中井和代氏（奈良県立教育研究所） 「障害のある子どもの理解—実践から学んだこと—」

河合淳伍（本学特任教授） 「支援員に求められているもの—支援に必要な具体的な取り組み—」

【特別支援教育セミナー】 教員の方むけ

① 8/11（土） 「繋ぐ SST」 講師：学校現場等で実践されている先生方

②2/23（土） 「心理検査とその解釈 様々なケースに見る支援法」 大西貴子（本学特任准教授）

「大学附属センターから地域への発信～6年間のプロジェクト報告～」 岩坂英巳

【PT・TTリーダー養成講座】

①ペアレントトレーニング指導者養成講座 7/7-8（土日）

②ティチャートレーニング指導者養成講座 8/18（土）

3.平成25年度相談事業（予定）…日程決まり次第HP にアップします

【専門プログラム】

①ソーシャルスキルトレーニング（土曜 SST くらぶ）

月1回土曜日午前中の全10回実施予定

②ペアレントトレーニング（PT）

火曜日午前中の全10回実施予定

③ティチャートレーニング（TT）幼児版

木曜日夕方の全6回実施予定

④SST ガールズ

原則月1回土曜日午前中の全6回実施予定

【個別相談】（予約制。事前にHPからかお電話でご予約ください。発達相談と教育相談があります。

## 【理数教育研究センター】

理数教育研究センターでは、学内教育プログラム、公教育現場や地域との連携事業を中心に沢山の事業を企画・立案、実施・運営しています。その全体像、個別事業内容は、HP や報告書に譲り、今回は、平成24年度に新規実施した事業のうち3つを紹介したいと思います。

### 1. 附属幼稚園連携事業「科学の日」

本センターは、附属幼稚園児を対象とした「科学の日」プロジェクトを進めています。平成24年5月21日(月)に、奈良市では282年ぶりとなる金環日食が観察されました。本プロジェクトの一環として、この282年ぶりの天体ショーを機会に第1回科学の日「金環日食勉強会」を平成24年5月18日(金)11:40~12:10に開催しました。主に幼稚園児年長組を対象にして(他の組も希望者は参加OK)、金環日食がどうして起こるのか、その仕組みについて本学の理数教育プロジェクト参加院生・学生及び有志が寸劇による解説を試みました。保護者を対象として、本学地学教室の和田穰隆教授による解説を行いました。当日の様子の一部は、関西テレビ、NHK 奈良のニュースで放映されました。「科学の日」は、その後も継続実施中です。



### 2. 神戸市青少年科学館で高エネルギー加速器研究機構(KEK)キャラバンへの支援活動

平成24年10月27日(土)に高エネルギー加速器研究機構(KEK)は、神戸市青少年科学館で最先端科学の成果を広く児童生徒や市民普及するためのKEKキャラバンを実施しました。本センターから、理数プログラム参加学生と教員が参加し、事前準備から実験補助や後片付け等への支援活動を行い、神戸市

民(生徒、保護者の皆さん)、KEKや科学館のスタッフと交流を深める一日となりました。こういった活動は、最先端科学研究と教育実践との接点の在り方を考証する絶好の機会です。KEKと本学双方にとって貴重な経験になります。なお、本連携活動は平成24年4月1日付けで本学とKEKの間で締結した包括連携協定の下で実施されました。



### 3. 京都府精華町立東光小学校での連携授業

平成24年12月8日(土)、本センターは京都府精華町立東光小学校において連携授業を実施しました。東光小学校は、関西文化学術研究都市の中心部である精華・西木津地区に位置し、地域の研究施設との協力授業を実施するなどの先進的な教育を行っています。今回、その教育実践の一環として、本学理数プロジェクト参加の教員・学生・院生の有志が連携授業を実施しました。連携授業の対象は、小学校4年生約120名。少人数授業を行うために6つにグループ分けして複数教員・院生・学生が授業を担当しました。授業者が院生・学部生の場合は、大学教員をアドバイザーとして配置するなど、教員養成の一環として連携授業を行いました。



本センターは学外に広く開かれています。様々な連携事業のご相談に応じます。何かありましたら、お気軽にご連絡下さい。(センター窓口は、電話:0742-27-9333, 電子メール: [nesm@nara-edu.ac.jp](mailto:nesm@nara-edu.ac.jp)です。)

## 【自然環境教育センター】

### 1. 米作り体験

自然環境教育センター奈良実習園では、毎年「親子米作り」体験を実施していますが、今年度は学生支援課と協力して留学生にも提供しました。

実際の作業は、田植え、稲刈り、餅つきの3つで、留学生にとって泥田に足を入れての田植えは、若干の躊躇はあるものの、入ってしまえば泥を顔にぬりつけて楽しんでいました。

餅つきでは、つき終わった餅をこねる時、田植え以上の騒ぎでした。餅とり粉を投げ合って顔を真っ白にする学生もいました。今回の体験を経て、留学生のうち農作業に興味を持った数名の学生は、その後もニンニクなどの栽培を続けています。

また、今回の米作り体験に附属中学校の「裏山クラブ」の生徒が参加してくれました。通常の米以外に、古代米の1つ緑米を植えています。附属中学校で米作りがさらに発展することを期待しています。



留学生による田植え体験

### 2. 公開講座

新たな取り組みとして「畑で汗を流しましょう」という公開講座をスタートしました。シカに植えた苗を喰われる被害に合うなど苦労しましたが、農薬を使わない虫食いだらけの野菜作りも好評のうちに終える事ができました。

毎年、奥吉野実習林で実施していた「親子キャンプ教室」は、昨年度の台風被害により実習林が使用できず、十津川村の旧五百瀬小学校を使わせていただき実施しました。参加者には、教室に宿泊することに興味

を持ってもらえましたが、次年度以降、実習林での再開を希望する声もありました。



親子キャンプ教室

### 3. あつまれ！お米たんけんたい

本学の家庭科の学生を中心とした「なつきょん食育塾」生達が、ESD「学び続ける学生プロジェクト」の一環として、上述の米作り体験に参加し、餅つきでは準備の段階から大きな力となってくれました。この塾生達は2月下旬には大学生協を会場にして「あつまれ！お米たんけんたい」イベントを開催し、附属幼稚園児と保護者の200名にお米の学習とともに、白米と黒米（古代米）で作ったおにぎりとパンの試食を提供し、また、イベント参加者には、塾生手作りの米粉にんじんクッキーをお土産に持ち帰ってもらいました。

さらに、同会場において「山添村特産品フェア」が山添村地域振興課と家庭科・技術科との協同イベントとして開催され、山添村特産の野菜やお茶、白米、黒米の販売も行われました。このフェアは、「あつまれ！お米たんけんたい」イベントの盛況と山添村のPRをねらって同時開催にしたものです。山添村と家庭科・技術科の関係は、「アウト キャンパス スタディ」と称する学外研修の縁で始まったもので、大学と地域の連携の一つの形と言えます。これらの催しはNHKで放送され、朝日新聞にも取り上げられました。



あつまれ！お米たんけんたい

## 各センターのホームページ一覧

各センターの活動については、下記のホームページをご覧ください。

### ◇学術情報教育研究センター

[http://www.nara-edu.ac.jp/13\\_CLAI/](http://www.nara-edu.ac.jp/13_CLAI/)

### ◇教育実践開発研究センター

<http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/homepage.htm>

### ◇持続発展・文化遺産教育研究センター

[http://www.nara-edu.ac.jp/20\\_jizokuhatten\\_bunkaisan.htm](http://www.nara-edu.ac.jp/20_jizokuhatten_bunkaisan.htm)

### ◇特別支援教育研究センター

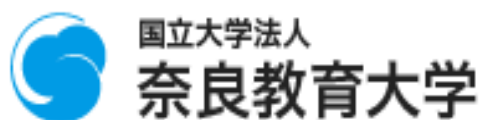
<http://nara-edu-csne.org/web/index.php>

### ◇理数教育研究センター

<http://nesm.nara-edu.ac.jp/>

### ◇自然環境教育センター

<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>



〒630-8528 奈良市高畑町  
奈良教育大学総務企画課

TEL 0742-27-9296

E-Mail [kikakugr@nara-edu.ac.jp](mailto:kikakugr@nara-edu.ac.jp)

URL <http://www.nara-edu.ac.jp/>